信州
立岩和紙の里
体験プログラム

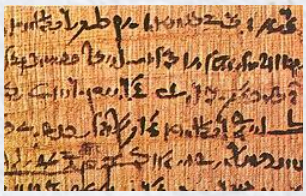
【2026年改訂版】

Ver.26.10.15

紙とは？ 和紙とは？？

①-紙より前は？

教科書などで見たことがあると思いますが、洞窟などに残る壁画が有名です。岩などに泥や炭、やがて植物や木の実などから色を作り指などで書いていました。



②-そもそも紙とは？

その**起源はエジプト/ピラミッドの時代と言われています。**薪など木を集めて火を焚いていた時代、その木の皮が薄く中面は滑らかだった事らその皮に指で書き記していた時代を経て、当時エジプトに多く生い茂っていたパピルスと言う木の皮をはぎ、水に浸し柔らかくし叩くなどして薄く延ばして乾かしたものが紙の原型と言われています。**紙の英語名“Paper”はこの「パピルス」と言う木の名前が**由来となっています。

③-日本にはいつ入ってきた？

日本へ紙が入ってきたのは大陸から仏教の伝来と共に、その教えが書かれた経典が仏教の広がりとともに日本でも作られるようになり、やがて薄いのに強く、筆で文字や絵を書くのに最適化し独自の進化を遂げました。それが和紙です。

④-和紙の特徴は？

特徴として**「薄くて強い」が挙げられます。**日本の家では長い間障子や壁紙に和紙が使われていましたが、近年の新しい家には既に和室が無いお家も多くなり昔に比べると和紙に触れる機会が少なくなっています。しかし、実はもっと身近な所で和紙と触れ合っています。実は日本のお札は和紙で出来ています。毎日何百回折り曲げ、人から人へと渡るので耐久性が求められます。
また微細な図柄がにじまないように印刷するのにも和紙はピッタリな素材です。
デジタル化した現在の社会においてはキャッシュレス化の進み、その機会さえ減りつつあります。

⑤-立岩和紙とは？

江戸時代中期、この地に住む農家が冬の農閑期に始めたのが「紙漉き」でした。和紙の材料は主に「がんぴ」「みつまた」「こうぞ」の3種類あり、ここ立岩地区には**生命力の強い「こうぞ」と言う桑科の木がどこにでもあり、**収穫も容易にできました。それに加え集落を貫く依田川の清流はその勢いから薄皮やチリを洗い流し、その冷たさから紙の繊維を引き締め密度を高め、薄いのに強く、しなやかな和紙へと発達していきます。その和紙はやがて中山道を行き来する人々の間で「立岩和紙」と呼ばれ評判となり、障子や壁紙などの建築用材として広く使用され、今で言う“ブランド”を確立しました。それが江戸時代から大正時代までの約300年間続きます。
しかし時代は流れ、生活様式も大きく変化した現在では機械化も進み海外から安価な紙が入ってくる様になり手漉きによる“紙漉き”事態も廃れ忘れ去られてきています。
今日この体験をを通して和紙の歴史・時間の流れや人々の営みなど、
何か“気付きの場”にして頂ければと思います。

団体での紙漉き体験について

＜立岩和紙保存会より＞

江戸時代後期から最盛期である大正時代までの間、特に障子紙の一大産地として名を馳せた[立岩和紙]でしたが、近現代になって洋紙の普及や生活様式の変化などが進むと生産が激減し、やがて立岩和紙は途絶える事になります。
その後一度途絶えてしまった“立岩和紙”と言う文化を復活・継承していくべく立岩和紙保存会を立上げ、地元の人々との協力により作られた施設がこの【信州立岩和紙の里】になります。
ここでは立岩和紙の伝統を多くの人に知っていただく為に体験学習の一環として「紙漉き体験」を行っております。この体験を通じて日本が誇る伝統技能の一端に触れる機会としてご利用頂ければ幸いです。

＜紙漉き体験について＞

・当館で実施している紙漉き体験について

信州立岩和紙の里では現在「うちわ作り」「卒業証書作り」の体験を通して立岩和紙を知って頂くプログラムをご用意しています。
紙漉き体験の手順については後述【紙漉き体験の手順】をご参照下さい。
尚、この紙漉き体験に使う紙漉き枠の数と水槽の関係上、一度にご利用可能な人数を200名前後とさせて頂いております。

＜料金について＞

通常1,750円/1名ですが、学校団体利用の場合は1,650円/1名とさせて頂いております。
（いずれも税込み価格）
また学校団体でのご利用の場合、1クラスに付き2名まで先生方も無料で体験して頂けます。
ただしそれ以上の場合は1名×1,650円を頂戴いたしますので予めご了承ください。

＜作品の発送について＞

紙漉き体験で作られた作品は昔ながらの方法で全て天日干しで乾燥させます。その為発送までに約2日～1週間程度お待ち頂きます。
乾燥後、学校ごとにまとめて梱包しお送りいたします。
尚、発送にかかる費用については**R8年度は**弊社負担にてお送りいたします。

＜ご予約について＞

・予約方法

ご予約はお電話での空き状況確認後、既定のお申込用紙をメール又はFAXにて**必ず後に残る形で**お送り下さい。

℡：0268-71-0004（工房直通） fax：0268-68-3895
メールアドレス：taiken@washinosato.com

※既定のお申込用紙はホームページよりダウンロードして頂けます。

・ご希望日時

5月、7月、9～10月は大変混み合います。人数によってはご希望に添えない場合があります。
尚、収容人数に余裕がある場合、他校も一緒に実施する場合がありますので予めご了承下さい。

・体験人数の変更
ご予約の際は生徒数、クラス数及び体験に参加される先生の数をお知らせ下さい。
お申込み後、人数の変更については随時お受けしておりますが、原料(こうぞ)等準備の都合上、最終変更は**前日正午**までとさせて頂いております。また、当日の人員増には対応できかねますので予めご承知下さい。

・雨天プラン
行程やプログラムを作るうえで雨天対策として紙漉き体験をご予約される場合の雨プラン予約も随時受付しております。
ただし条件等については後述の**「雨天対策の予約について」**をご覧下さい。

・その他
仮予約(最大1カ月間)、アレルギー、下見等ご要望がありましたら合わせてお知らせ下さい。
またこちらからの連絡に付きましては、先生方と直接、旅行代理店を通して、又はその両者と取らせて頂く場合がございますので予めご了承ください。
尚、交通状況等により当日の到着に**大幅な遅延**が発生した場合、予約状況によっては(**特に午前予約で午後に別予約が入っている場合**)**体験の実施をしていただけない場合**がございますので十分**ご注意**下さい。その場合でも料金は発生しますので、予めご了承ください。
(後述キャンセル料規定参照)

＜お支払いについて＞

体験に関するお支払は当日の現金払い又は売掛(後日振込)のいずれかでお支払い頂いております。
※月曜日は食堂定休日の為、現金精算が行なえませんのでご注意下さい
尚、ご請求人数の確定は準備の都合上**【前日正午の時点で予約された人数】**でご請求書をご用意致します。以降の人数変更は出来ませんのでご注意下さい。
(後述キャンセル料規定参照)

＜雨天対策の予約について＞

野外でのハイキング等を計画させる上で雨対策(雨プラン/裏プラン)としてのご予約を希望される場合、ご希望日に他の予約が無いか、予約が入っていても人数的に余裕があれば通常の予約と同様に受付可能です。ただし、雨プランでない予約が入った場合はそちらを優先致しますので、その時点でキャンセルとさせて頂く場合があります。
また、雨プランをキャンセルする場合はキャンセル規定に基づきキャンセル料が発生致しますので予めご了承ください。**(後述キャンセル料規定参照)**

＜予備日の設定＞

雨天を考慮し予備日を設ける場合、前後2日以内の設定であり尚且ついずれかの日程で実施頂ければキャンセル料はかかりません。
ただし予約状況(特に繁忙期)によっては予備日のお受けが出来ない場合がございます。

＜大広間の利用について＞

食堂側にある大広間(収容数約80名)を天候に関係なく昼食会場としてご利用頂けます。
ただし宴会等にも使用する関係上、事前予約での受付となります。**(当日申込不可)**
また、お弁当の手配も可能です。(850円税込み/要予約)
尚、お弁当を持参した場合のゴミはお持ち帰り頂いておりますので予めご了承ください。

※上記記載の料金は2026年6月現在に定めた料金及びご利用条件となります。次年度以降については資材・燃料等の高騰により変更になる場合がございます。

＜キャンセル料規定＞

①人数変更

事前に体調不良等で参加できない生徒さんがいた場合、前日の正午までにお知らせ頂ければ人数変更は可能です。ご連絡はお電話又はメール、FAXにてお知らせ下さい。
※準備の都合上、前日の正午までにご連絡頂いた人数を持って体験人数の確定とさせて頂きます。以降は当日を含め人数変更は出来ませんのでご注意下さい。

人数変更	前日の正午まで	前日の午後以降	当日
	可能	不可	不可

②全てのキャンセル

台風や大雨等による行程のキャンセル、又インフルエンザ等感染症による学級閉鎖、雨プランを含め紙漉き体験の全てをキャンセルする場合、6日前よりキャンセル料がかかります。
気象情報等で実施可否に心配がある場合、天気予報等を確認頂き早めのご連絡、ご判断をお願い致します。
尚、雨プランのキャンセルは通常予約とはキャンセル料率が異なりますのでご注意下さい。

キャンセル料率	1週間前	6～2日前	前日	当日
通常予約	0%	10%	50%	100%
※雨プラン予約	0%	10%	15%	20%

※R8年度までは雨プラン予約の場合、当日までキャンセル料は一律10%でしたが原料・燃料・人件費等の高騰により次年度より上記の様に改訂いたします。
※台風等の状況を鑑み行程を変更・延期する場合、その時点でのキャンセル料を一旦お支払頂き、実施時にその差額分をご請求させて頂きます。

＜紙漉き体験での注意点＞

・服装

紙漉き体験では水を使用致します。またコウゾの原液は粘度の高い液体の為、ジャージ等汚れても大丈夫な服装でお越し下さい。尚、服等にコウゾが付いた場合でも乾けばフワッとした紙の繊維になります。軽く払えば簡単に取れます。気になる方はコロコロクリーナー等を使用すれば簡単に取る事が出来ます。

・持ち物

水槽の下に荷物を置くスペースがありますが、水で濡れる場合がありますので可能な限り体験工房へは軽装でお入り下さい。
◆お持ち頂く物（推奨）
①下絵…予め何を書くか考えて来て頂くと当日スムーズに絵を書く事が出来ます。
※別紙の下書き用シートをご利用下さい。
②しおり…次の行程等の確認が必要な場合や、しおりにうちわの下書きを書いている場合はお持ち下さい。

③飲み物…工房内にはエアコンも完備してありますが、たくさんの生徒さんが入ると館内はかなり暑くなります。必ず水筒等で水分補給が出来るようにご用意下さい。特に夏場は絵付けに夢中になりすぎると喉の渇きに気付きにくい事があります。
※随時アナウンスで水分補給を促します。

・他校予約がある場合
繁忙期は同時に他校の予約が入る場合があります。その場合はお互い他校へのご配慮をお願い致します。

＜アレルギーについて＞

当館では自家製粉・自家製麺（手打ち）でそばを提供する食堂を併設しております。その為、**そばアレルギー**をお持ちの生徒様については下記の様な対応を取らせて頂いております。

・軽度のそばアレルギーをお持ちの場合
食堂近くを通らない導線にて体験工房にお入り頂きます。
※別紙配置図をご参照下さい。
また、出来るだけ食堂から離れた水槽でうちわ作りをして頂きます。
お手洗いについては隣接のセブンイレブン様のお手洗いをお使い頂ける様手配しております。

・重度のそばアレルギーをお持ちの場合
空気中にそば粉が舞っている可能性がありますのでバスの中で待機、又は別行程のプログラムをご用意下さい。

＜その他＞

・トイレ…体験工房自体にはお手洗いがございませんので、食堂側のお手洗いをご利用頂きます。尚、お手洗いへは食堂を通らず体験工房を一度出て外から移動して頂きます。
男子＝小×3、個室×2、女子＝個室×5、多目的トイレ＝個室×1

・AED…館内に1機設置

・駐車場…建物横（観光案内の看板前）に大型バス2台、裏（川沿い）に6台の駐車スペースがございます。到着の10分前より誘導係が待機し入口にてお待ちしておりますので誘導員に従いお停め下さい。ただし予約状況により誘導に出れない場合がございます。その場合は空いているスペースへお入り下さい。
※隣接のセブンイレブン様の邪魔にならない様ご配慮下さい。

＜所管官公庁＞

	名称	連絡先	所要時間
町役場	長和町役場	0268-68-3111	車で約5分
消防署	依田窪南部消防署	0268-68-0119	車で約3分
警察署	上田警察署	0268-22-0110	車で約30分
病　院	依田窪病院	0268-68-2036	車で約5分

紙漉き体験の手順（うちわ編）

ようこそ体験工房へ

指定されたテーブル(漉船＝船)へ奥から詰めて隙間なく8名ずつお入り頂きます。原料の準備の都合上クラスや班が離れる場合があります。

レクチャー

スタッフが紙の歴史、紙と和紙の違い、何カ所かに分かれ作り方を説明致します。その後、実際に生徒の皆さんに和紙を漉きうちわ作りをして頂きます。

①-枠とうちわの骨を船に入れ水に浸します

②-全体が濡れる程度浸したら枠だけ取り出す

③-1回目の流し込み

横にある大樽から大きなボールでコウゾをすくいます。その際ボールの内側に書かれた線までしっかり入れて下さい。

注意1-繊維が沈んでいる事があります。樽のコウゾはしっかりかき混ぜてからすくって下さい。

注意2-ボールの線までコウゾを入れると約3㍑＝3㎏になります。また粘度の有るコウゾは滑りやすいので溢さないように注意して下さい。

④-枠へコウゾを流し込む

流し込むと網から水分だけが抜け落ち、紙の繊維が網に残ります。繊維が偏らないようにゆっくりと縦・横にゆすりながら水を切る→これが**「紙を漉く」**と言われる作業です。

⑤-うちわの骨を斜めに置く

うちわの骨を取り出し枠に置きます。(向きは左右どちらでも良いですが、完成後のりしろが必要な為必ず斜めに置いて下さい)
うちわの持ち手の表面が、ツルツルとした方が表です。

注意3-裏表間違えないように注意して下さい。

○○市立□△○小学校
125

⑥-学校名のシートを置く

事前にご用意頂いた学校名の入った紙を右上に置きます。

注意4-用紙はこちらでの用意も可能ですが、その場合は右の様な学校名と番号だけになり、その番号が自分の作品番号になります

⑦-２回目の流し込み

全員、1回目の流し込みが終りうちわの骨を置いたら2回目の流し込みをします。流し込む際、勢いが良すぎると1回目で流し込んだ繊維に穴を開けてしまう事があります。ボールをしっかり持ち、注ぎ口に手を添えて優しく流し込んで下さい。

注意5-片手での作業となります。お友達と協力して作業して下さい。

注意6-この針は鋭いので**くれぐれも**取り扱いには十分注意して下さい。

⑧-絵を描く

2回目の流し込みが終わり水分が抜けたら、うちわの上に絵を描いていきます。
・筆…絵をかくのは筆ではなく針を使います。
・絵具…テーブルに赤、青、黄、緑、茶、黒の、6色のコウゾが並んでいます。「絵を描く」と言うよりは、色の付いた繊維をうちわの上に“置く”イメージで絵を書いていきましょう。

⑨-広い面を塗る

・スプレー…スポイトがスプレーになります。
広い範囲を塗るのにとても便利です。
※使い終わったら次の人の為に水槽で洗っておきます。

注意7-スプレーの先端が細いので繊維が詰まる場合があります。その際は係を呼んで下さい。

⑩-6色以外の色は？

紫を塗りたい場合は、青と赤、オレンジは赤と黄、白は大樽のコウゾそのものを使います。青と混ぜると、水色になります。
各色とも重ね塗りする事で濃くなっていきます。

注意8-色を混ぜる際は、空いているボールで混ぜて下さい。6色のボールや大樽には他の色を**絶対**混ぜなで下さい。
また、6色の絵の具は一番前におかわりを用意しています。少なくなったらボールを持って前に行き、係からおかわりをもらって下さい。
もし、時間が余ったら余白にも自由に絵や文字を書いてみましょう。

※絵を書き始めたら随時スタッフが回りながら生徒さんのサポートをします。

⑪-完成

完成後、各自枠のまま外の乾燥台へ持って行き、天日で2日～1週間程度乾かしてから学校へお送りします。うちわを運ぶ際は階段や段差に注意し作品を落とさないように注意して下さい。

注意9-段差に気を取られ下だけを見ていると前の人にぶつかり、二人とも作品を落とすことが多々あります。

⑫-片付け

乾燥台から戻った生徒さんから船の上の絵具、筆、ボール等を係の指示で片付けて頂き終了となります。

⑬-発送後の仕上げ

乾燥後うちわは枠から外し**四角いまま**お送り致します。
うちわの仕上げは生徒さん各自で行って頂きます。
※別紙「うちわの仕上げ」をご参照下さい。